

中国語複文の時間表現について

執筆者：孫 偉

Sun, Wei

所属機関：杏林大学大学院国際協力研究科開発問題専攻

アドレス：sunwei@dc5.so-net.ne.jp

中国語複文の時間表現について

要 約

中国語の時間表現に関しては、従来、時間を表す詞あるいは動態助詞の一方に注目し、その使用方法を分析するという研究法が多く見られた。そのため、中国語の単文と複文を含めたテンス体系が明確に理解できるまでに至っていないのが現状である。

小稿は複文に存在している動態助詞「了、着、过」および時間を表す名詞と副詞を分析する方法を通じて中国語複文のテンスを考察した。同時に、テンスとアスペクトの関係、複文のテンスに関連する概念を理解するために、図形表示法を導入した。この考察を通じて、以下の主な結論を得た。

1. 日本語図形表示法は中国語においても適用可能である。
2. 図形表示法を使用することにより、中国語複文のテンス体系を構造的に分析することができ、絶対テンスと相対テンスの存在およびそのあり方が確認できた。
3. 「了、着、过」と同等の働きを持つ「0（ゼロ）動態助詞」の存在が確認されたことにより、日本語の「(動詞) + タ、テイル」と同様に、中国語の動態助詞はテンスあるいはアスペクトを表す形態であると考えられることができる。
4. 時間詞は動態助詞を補助する役割を担うものであり、動態助詞だけで判断できない場合、もしくは時間の領域を明確にする場合に用いられるものである。しかし、時間詞が用いられると動態助詞が意味的に過剰になり、動態助詞が削除される場合もある。

中国語複文の時間表現について

1. はじめに

どのような言語を使用しようとも、全ての出来事は時間との関わりを持っている。ロシア語、英語、日本語などでは、動詞が語形の変化を通じてテンスとアスペクトを表すことができる。中国語の動詞は語形の変化こそ持たないが、過去（完了）の出来事は「動詞＋了」で、現在（進行中）の出来事は「動詞＋着」で表すことができる。すなわち、動詞の後ろに「了」、「着」、あるいは「过」などの動態助詞が付くことによって、部分的でありながら同様な役割を果たすことができる。言語が異なっている以上、出来事に対する表現法が違うということはごく自然なことである。

時間表現のなかで、重要な位置を占めているのはテンスの表現法である。いわゆるテンスとは、動詞にみられる文法的カテゴリーの一つで、動詞の表す動作・状態などを時間軸上にどう位置づけるかに関わるものである。話者の発話時点を現在という基準にし、現在の前を過去、現在の後を未来とすることができる。また、現在と未来を非過去とすれば、過去と非過去の対立も見られる。ここでは、日本語テンス・アスペクトの図形表示法^{注1)}を参考に、中国語の動詞と動態助詞「了、着、过」、および時間名詞と時間副詞の機能を検討し、中国語の絶対テンスと相対テンスの存在および表し方を考える。これによって、中国語の複文におけるテンス体系を構造的に分析し、その全体像を明らかにしたい。

2. 中国語のテンス

1) 研究背景

張秀（1957）は、中国語の多くの用例を時間名詞・副詞、動態助詞、およびアスペクトとテンスの結合関係などの視点から総合的に分析した結果、現代中国語には関係時制（すなわち相対時制）は存在しているが、絶対時制は存在していない（文法形式ではなく語彙形式で表す）と結論付けている。

龔千炎（1995）では、中国語の動詞は形態変化を有しないし、テンスを表す用語が少しも「虚化」（虚詞化、本来の意味を持たないで、語法成分になる）していないから、現代中国語では「時」（tense）の語法範疇が形成されていないと指摘している。

上述のような中国語にはテンスが体系的に不完全にしか、あるいは全く存在していないという説に対して、C. E. ヤーホントフ（1957）は、中国語におけるテンスの範疇は、アスペクトのニュアンスが追加されることによって複雑になっており、単なるテンスとしてではなく、むしろ混淆したアスペクト的テンスの意味を有する範疇となっていると論じている。また、呂叔湘（1982）、李臨定（1990）、範曉・張豫峰等（2003）では、絶対テンスと相対テンスに関する解釈こそ異なっているものの、テンスの存在は認められている。李鉄根（1999）はより綿密に中国語の動態助詞「了、着、过」を分析し、「了、着、过」はテンスを表す機能とアスペクトを表す機能を同時に持っているという結論を得た。

しかし、呂叔湘（1982）で「語法形式だけによるテンスの分析は不十分で、語彙形式の分析も導入すべきである」、龔千炎（1995）で「時制表示は一般的に語彙手段^{注2)}、つまり時間詞を利用している」と指摘されているように、現代中国語のテンスを研究する際には、時間名詞や時間副詞を動態助詞と同時に分析の対象にする必要が出てくる。

2) 問題点

中国語における単文のテンス、複文の絶対テンスと相対テンスの存在およびそのあり方については、さまざまな異なる説が存在している。上述のように、中国語の時間性を表す時間名詞、時間副詞、あるいは動態助詞については、多数の論著が出されている。とくに80年代後期から、中国語のテンス・アスペクト体系は次第に明らかにされつつある。しかし、以下のような問題点も見られる。

- 1 テンスの研究に時間を表す語彙手段の分析に頼る傾向が見られる。
- 2 動態助詞は、どのようなとき、どのような時間名詞および時間副詞との組み合わせで、何を表しているのかがまだ明らかにされていない。
- 3 絶対テンスと相対テンスの存在そのものは認められているものの、複文におけるテンスの具体像はまだ明らかにされていない。
- 4 語彙手段、語法手段^{注3)}、さらに文脈を考えたうえでの、中国語複文のテンス構造に関する研究は依然として少ない。

3. テンスと複文に存在する動態助詞・時間名詞の関係

刑福義（2001）、劉月華（2002）では、中国語の複文は二つあるいは二つ以上の単文によって構成され、各単文は必ず意味的關係を持つ単文であり、複文内のある単文は他の単文の一部であってはならないと指摘している。

日本語の複文については、野田尚史（2002）が「複文というのは、文のような形をしている節が二つ以上集まってできたものと考えられることが多い」と述べ、主文に対する機能から従属節を連用節、名詞節、連体節に3分類している。

複文に関する定義とそれに従う複文の形式は、中国語と日本語はそれぞれ異なるようにとらえられている。日本語の複文は主文と従文^{注4)}によって構成されるのに対して、中国語の複文は単文と単文によって構成される。それで、「着物を着ている女の子が踊る」（穿着和服的姑娘跳舞）のような文は、日本語では複文であるとされるが、中国語では「穿着和服的」は主語「姑娘」の属性を表すフレーズであるため、「穿着和服的姑娘」は一つの主語と見なされ、したがって、複文ではなく単文であるととらえられる。

1) 動態助詞

動態助詞とは、主に「了, 着, 过, 来, 去, 起来, 下去, 来着」などの語を指す。動態助詞は、大部分の動詞あるいは一部の形容詞の後ろに付くことができ、出来事の（時間的）過程あるいは状態を表す。

本研究では、「了, 着, 过」を取り上げて分析する。

(1) 中国語の「了」(le)

中国語の助詞「了」は、もともとは動詞の「了(liao)」であり、「完結」を意味する語である。八、九世紀頃から虚詞化し、現在の助詞に変化してきたと考えられている。動態助詞としての「了」は動作あるいは状態の実現を表し、動詞と形容詞の後ろに用いられる。過去の出来事についても、未来の出来事についても使うことができる。

我吃了两碗饭。(述語+動態助詞「了」)

私にご飯を二杯食べた。

我昨天去了长城,也去了颐和园。(過去を表す時間名詞+述語+動態助詞「了」)

昨日、私は万里の長城にも行ったし、頤和園にも行った。

我明天去了长城,再去颐和园。(未来を表す時間名詞+述語+動態助詞「了」)

明日、私は万里の長城に行ってから頤和園に行く。

中国語の「了」は、一般的に動態助詞、つまりアスペクト表現語として扱われることが多い()。しかし、明確な時間を示す時間名詞がない場合は、一般的に動作が未来の時間に行われると思われ、また完了を表す動態助詞「了」が動詞のあとに現れているときは、動作が「発話時に完了した」と考えられる。さらに、「了」が存在していなければ、の例文が非過去の文となり、の例文が非文となる。

そのため、「了」使用文に時間名詞が存在していない場合は、「了」は完了のアスペクトを表していると同時に、出来事が過去に完了したこと、すなわち過去のテンスも表していると考えられる。

(2) 中国語の「着」(zhe)

中国語の助詞「着」の語源は動詞の「着(zhuo)」であり、元来は「付着する」の意味である。現代中国語の助詞として、「着」は動詞の後ろに用いられ、動作の進行中あるいは状態の持続中を表す。文中に時間副詞の「正,正在」、文末に「呢」が現れる時もある。

小马正吃着饭呢。

馬君にご飯を食べている。

老李正写着计划书(呢)。

李さんは企画書を書いている。

我正在家吃饭的时候,老杨去找我了。

私がちょうど家でご飯を食べているとき、楊さんが訪ねてきた。

とは単文である。では時間副詞が使われていないが、では「着」が時間副詞「正」と併用され、テンスが現在であり、アスペクトが進行中であることがより明白に確認できる。の複文では、「着」が進行を表していると同時に、前節出来事が後節出来事と同時であることも表している。

(3) 中国語の「过」(guo)

中国語の助詞「过」の語源は動詞の「过(guo)」であり、元来は「経過する、通過す

る」の意味である。現代中国語の助詞としての「过」は、主に動詞の後ろに用いられ、動作の完了、あるいはかつてこのような出来事があったということを表す。形容詞が「过」を伴う場合は、現在（の状況など）と比較する意味がある。

我去过北京。

私は北京に行ったことがある。

我和她感情也好过。

私と彼女は感情のいい時期もあった。

我们讨论过计划问题,就给你打电话。

私たちは企画問題を討論したあと、すぐにあなたに電話をする。

「过」は単にアスペクトを表しているという考え方も存在している。しかし、経験相を表している と の「过」を削除すれば、文が未来あるいは現在の文になるため、やはりここでの「过」は（過去の）テンスを表していると考えたほうがよい。また、 の前節にある「过」を「了」に換えても、文の意味が少しも変わらないため、このときの「过」は「了」と同様に「完了」のアスペクトを表す機能を持っているといえる。複文である の「过」は、過去の意味こそ表していないが、前節出来事の終わったあとで後節出来事が発生するという出来事の時間的順序を表している。このときの「过」もテンス（相対テンス）を表していると考えられる。

2) 時間名詞

時間名詞は時間副詞と同様に、時点を表すものと時間帯を表すものが存在している。時間名詞は単独で出来事の発生あるいは完了の時間を表すことができ、表す時間の相違によって以下のように分類することができる。

過去を表す時間名詞：过去, 以前, 当时, 昨天, 刚才, 去年, 古代, など。

現在を表す時間名詞：现在, 此时, 目前, 当前, 当今, 这会儿, 今天, など。

未来を表す時間名詞：将来, 未来, 以后, 明天, 下星期, 下月, 明年, など。

ある出来事が他の出来事より先行していることを表す名詞：之前, 以前, など。

ある出来事が他の出来事と同時であることを表す名詞：时候, (的)同时, など。

ある出来事が他の出来事より後行していることを表す名詞：之后, 以后, など。

注意すべきは、時間名詞がテンスを表しているかどうか、前文のみのテンスあるいは後文のみのテンスを表しているか、その現れる位置によって異なることである。例えば：

1 テンスを表していない例：

过去的事就不要提了。

過去のことはもう言い出さないください。

「过去的」は一つの修飾語句であるため、「过去」という時間名詞は「事」の修飾語として使われている。

2 時間名詞でテンスを表している例：

我以前喝啤酒。

私は以前、ビールを飲んでいた。

文中にはテンスを表せる動態助詞が存在せず、「以前」によって出来事が過去の範疇に属することが示されている。時間名詞が「現在」なら出来事が現在の範疇に属することになる。このような例ではテンスは時間を表す名詞のみによって表される。

3 前節のみのテンスを表している例：

去年去过北京的人，可以去上海。

去年北京に行った人は，上海に行ってもよい。

時間名詞「去年」は，前節に現れているため，前節のテンスのみを表す。

4 後節のみのテンスを表している例：

出席了会议的人，明天休息也没关系。

会議に出席した人は，明日休んでも構わない。

時間名詞「明天」は後節のテンスのみを表している。前節には時間名詞が存在していないが，動態助詞「了」によって出来事が過去に完了したと認識できる。

上述のように，中国語の時間名詞はテンスを表す機能を持っていると考えられている。しかし，時間名詞と動態助詞が同時に現れる場合，文の種類，時間名詞と前・後節の関係，動態助詞が表すものなど，ほかの条件も考慮しなくては，時間名詞がどの出来事のテンスを表しているのかについては正確に判断できないことになる。

3) まとめ

中国語の動態助詞「了」，「着」，「过」は，アスペクトを表すだけでなく，テンスを表す機能も持っていることが以上において簡潔に説明された。

動態助詞は，時間名詞あるいは時間副詞と併用されるときもあれば，それぞれ単独で文中に現れ，テンスとアスペクトを同時に表しているときもある。時間名詞や時間副詞あるいは動態助詞が役割を分担してテンスとアスペクトを表すときもある。この複雑な状況下，とくに「了」，「着」，「过」は，複文の前節に現れる場合，どのように相対テンスと関わっているかについては，これまで体系的に取り上げて研究されていないだけに，掘り下げて分析する価値がある。

4. 複文におけるテンスの構造的分析

複文のテンスは図形で表示できる。以下では，例文を挙げながら図形表示法を通じて，中国語の複文における動詞，動態助詞，時間名詞，時間副詞と絶対テンス・相対テンスの関係を見てみる。

1) 前節動詞句が相対テンスをとる場合

あらゆる出来事は時間の流れの中で生起（あるいは進行，終了）する。図 - 1 では，時間の流れを川の流れにたとえており，話者は川岸のある位置（S）に立っている。話者の立っている位置を現在（中心部の点線）にすれば，その右側が未来の範疇になり，左側は過去の範疇になる。この図では，想定された出来事が船のように川の流れ（時間の流れ）に乗って未来（右側）から過去（左側）に流れて行くことが示されている。

図 - 1 絶対テンスと相対テンスの関係図^{注5)}

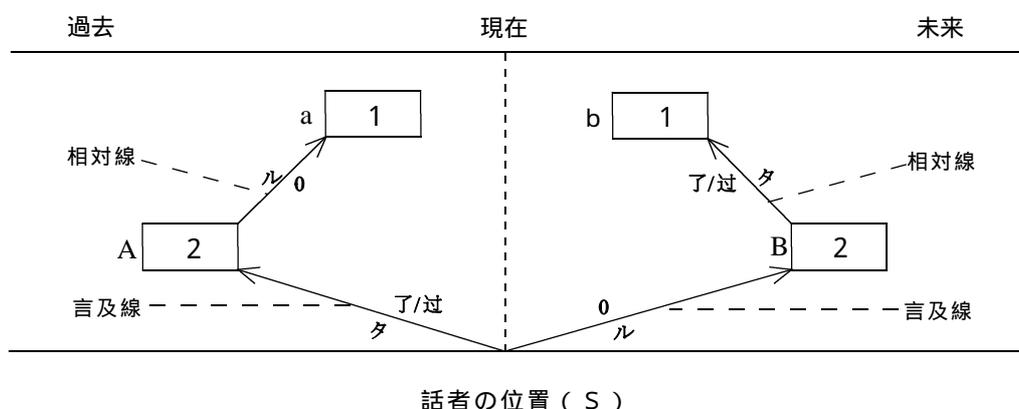


図 - 1 では、日本語の主文出来事もしくは中国語の後節出来事（ 2 で表示される ）は日本語の従文出来事もしくは中国語の前節出来事（ 1 で表示される ）と時間的な位置関係を保ちながら未来から現在を経て過去に動いていくことが示されている。（ただし、図 - 1 ではスペース節約のため、未来と過去では時間的な位置関係の異なるものを同時に載せている。また、それぞれの出来事はアスペクトを帯びているが、進行中のアスペクト以外はここでは考えないことにする。以下同様。）絶対テンスは出来事の発生時と発話時の間に存在する時間関係であるため、話者の位置と 2 を結ぶ矢印が絶対テンスを示し、これを言及線という。相対テンスは出来事の発生時と発話時以外のある時（すなわち、日本語の主文出来事と中国語の後節出来事の生起時または完了時）の間に存在する時間関係であるため、出来事 2 と 1 を結ぶ矢印が相対テンスを示し、これを相対線という。

具体的に次のような例で考えてみる。

銀座に行った¹人は鞆を買²う。（図 - 1 では、SBb と表示される）

主文の動詞「買²う」が動作動詞のル形であるため、主文出来事は未来に発生することになり、絶対テンスは未来（SB）となる。従文動詞「行¹く」はタ形をとっており、原理的には動作が過去に行われた場合と主文出来事以前に行われる場合の二通りに考えられるが、この例では未来に行われている。すなわち、ここでは従文動詞¹は絶対テンスをとっておらず、主文の出来事より先に行われたことのみを表し、「行¹った」は「以前^{注6)}」の相対テンス（Bb）を表している。

銀座に行く¹人は鞆を買²った。（図 - 1 では、SAa と表示される）

主文動詞「買²う」がタ形であるため、主文出来事は過去に完了したと思われ、絶対テンスは過去（SA）であることになる。従文動詞「行¹く」はル形であり、出来事の間は原理的には絶対・相対両テンスのいずれでも可能であるが、この例では出来事が過去に行われている。そのため、従文動詞「行¹く」は従文出来事¹が主文出来事²より後に

発生することを表し、「以後注6）」の相対テンス (Aa) を表していることになる。

「従文動詞¹ - タ形, 主文動詞² - ル形」の場合, あるいは「従文動詞¹ - ル形, 主文動詞² - タ形」の場合は, 従文動詞¹の形と主文動詞²の形とが逆であり, 従文動詞¹が相対テンスをとることを以上のように図形表示法で説明することができる。従文動詞¹が相対テンスをとる場合, 従文の出来事は時間的には過去でも未来でも可能である。

一般的に出来事の具体的な発生 (あるいは進行中または完了) 時間を示す必要がないときには図 - 1 のままで考えてもよいが, 出来事が行われる具体的な時間を示す必要があるときは, 図の下部に時間を表す詞を付け加える必要が出てくる。例えば: 「明日, 銀座に行った¹人は鞆を買う²」については, 図 - 2 のように簡略に示すことができる。このような示し方は日本語においても中国語においても同様に可能である。中国語では時間詞が使用される。

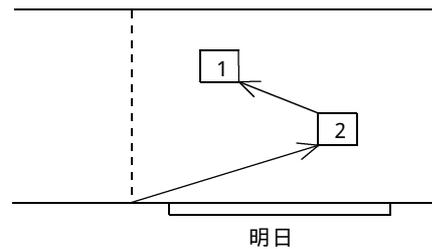


図 - 2

(1) 絶対テンスが未来であるとき (SB)

她唱了歌, 再跳舞。(¹ 以前 - ² 未来) (「 - 」の左側は前節動詞句の相対テンス, 右側は後節動詞句の絶対テンス。以下同様。)

彼女は歌を歌ってから, ダンスをする。

過去を表す時間名詞が存在しない場合, 「了」と「过」が過去の時間を表し, 「着」が現在の時間を表すことについてはすでに (3で) 述べた。後節の動詞「跳」は後ろに完了を表す「了, 过」も進行を表す「着」も付いておらず, 原形動詞で現れているため, 後節は過去の文でもなければ, 現在の文でもない。未来の文であるとしか考えられない。

ここでの原形動詞とは, 動詞の後ろに「了, 着, 过」などの動態助詞が付いていない形 (裸の動詞), すなわち動詞そのもののことをいう。「動詞 + 了, 过, 着」などに対して, 形態的にこれを「動詞 + 0 (ゼロ)」で表すことができる。また, 動態助詞「了, 着, 过」などに対して, 動詞の後ろになにも入らないときの形態を「0 (ゼロ) 動態助詞」と呼ぶことができる。

では, 前節に現れる原形動詞および動態助詞は何を表しているのだろうか。

の後節は図 - 1 の B² に該当し, 未来に生起する出来事について述べている。前節出来事においては, 時間を示す名詞も副詞も存在しておらず, ただ動作の完了 (アスペクト) を表す「了」のみが現れている。このときの「了」は単文である前節出来事が過去の時間範疇に属することを示していると同時に, 複文の中で前節出来事が後節出来事より先に完了していることも示している。そのため, 前節出来事と後節出来事の間時間に前後関係が生じている。この場合, 前節出来事は後節出来事の時間を基準とし, 「了」は完了のアスペクトを表していると同時に, 「以前」の相対テンスも表していると考えられる。これを図形で考えれば, 「S - B² - b¹」(図 - 1 参照) の形となる。したがって, こ

の複文のテンスは「1 以前 - 2 未来」であると考えられる。

また、図 - 1 を簡略化することもできる。話者の位置（現在）を示し、この黒の三角より右の部分未来の範疇とし、左の部分を過去の範疇とする。前節出来事を 1 で示し、後節出来事を 2 で示すと、 から出て 1 あるいは 2 に向かう矢印は絶対テンスを示し、 2 から出て 1 に向かう矢印は相対テンスを示すことになる。 を簡略図で示すと図 - 3 となる。

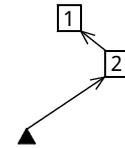


図 - 3

動態助詞「过」は、3の1)の(3)で述べているように、「了」と同様に過去を表すことができる。複文の場合、 では、「了」によって前・後節がともに過去の時間範疇に属することが示されている。このとき、前節に存在している「过」は、過去の経験を表すのではなく、時間的に前節出来事が後節出来事より先であることを表しているのである。これを図形で表示すると、同じく図 - 3 となる。複文においては、「过」も「了」のように「以前」の相対テンスも表せるものと考えられる。

(2) 絶対テンスが過去であるとき (SA)

为去国外留学, 他把工作也辞了。(1 以後 - 過去 2)

海外留学をするため、彼は仕事も辞めた。

この例では、前節 1 の出来事は原形動詞「留学」によって現在以後に生起することが表されており、後節 2 の出来事は動態助詞「了」

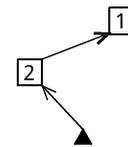


図 - 4

によって過去に完了したことが表されている。すなわち、前節出来事 1 が後節出来事 2 より後で生起することになっており、複文のテンスは「1 以後 - 2 過去」となっている。(図 - 4 では「以後」は未来の時間領域にある。)

なお、ここでは省略するが、絶対テンスが「未来・現在・過去」のいずれである場合においても、前節動詞句 1 が後節動詞句 2 と同時に生起すれば、動態助詞「着」によって「同時注6)」の相対テンスをとることができる。

後節動詞句 2 が絶対テンスをとり、前節動詞句 1 が相対テンスをとる条件の下では、前節に現れる「了」と「过」は出来事の先行性を表すことになる。すなわち、前節動詞句 1 は「了」と「过」によって「以前」の相対テンスをとることになる。

また、図 - 1 において発話時 (S) から過去の出来事 1 (A) に矢印が向けられる (絶対テンスをとる) 場合、「動詞 + 0」すなわち原形動詞 (例えば「参加」) が用いられないことから、過去の複文 中にある「動詞 + 0」(参加) は絶対テンスを表さないことになるので、相対テンスの存在が証明されることになる。つまり、 では、「動詞 + 0」は「以後」の相対テンスを表すことになる。同様に、未来の複文に用いられる「了」と「过」も、絶対テンスを表さないで、「以前」の相対テンスを表すものと考えられる。これに、同時性を表す「着」を加えると、中国語の相対テンスは動詞および動態助詞で表すことができることが考えられる。したがって、中国語は文法上に絶対テンスと相対テンスのシス

テムを持っており、それは動詞および動態助詞で表すことができるといえる。

2) 前節動詞句が絶対テンスをとる場合

她虽然唱歌, 但是也跳舞。(1 未来 - 2 未来)

彼女は歌を歌うが、ダンスもする。

この例では、前節動詞句 1 および後節動詞句 2 はともに原形で現れており、かつ、時間を表す名詞や副詞がないため、どちらが先行してもよいように考えられる。つまり、話者が二つの

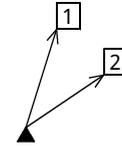


図 - 5

出来事に対して、発話時点を基準と考えていれば、両方とも絶対テンスをとることができる(話者の位置から 1 および 2 に矢印が向かっている)。さらに、前節出来事が後節出来事の後に生起することも予測できるため、前節動詞(原形動詞「唱」)は「以後」の相対テンスを表している(2 からの矢印が右上に向く)とも考えられる。また、前節出来事が後節出来事より先に生起することも排除できないため、前節動詞句が「以前」の相対テンスをとることも可能である。(矢印が 2 から左向きに出て、前節動詞句が「她虽然唱了歌」となる。)

为去国外留学, 他把工作也辞了。(1 未来 - 2 過去)

海外留学をするため、彼は仕事も辞めた。

これはと同じ例であるが、話者が発話時点から前節出来事と後節出来事の両方を述べるとすれば、図 - 6 で示されたように、出来事 1 および 2 はともに絶対テンスをとっていることも考えられる。

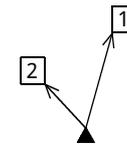


図 - 6

以上で述べてきたように、図形表示という方法を利用することによって、複文におけるテンスの表し方や概念を明晰にすることができる。発話時を中心において、発話時の位置から左側に向ける矢印は過去の絶対テンスを示し、真上に向ける矢印は現在の絶対テンスを示し、右側に向ける矢印は未来の絶対テンスを示す。また、後節出来事 2 を中心の位置とすれば、そこから左側に向ける矢印は以前の相対テンスを示し、真上に向ける矢印は同時の相対テンスを示し、右側に向ける矢印は以後の相対テンスを示す。

複文においては、で見られたように、前節動詞句が相対テンスと絶対テンスのいずれもとることができる。すなわち、動詞と動態助詞の組み合わせだけでは前節のテンスが明白に判断できない問題が生じている。前節動詞句がとっているテンスを確定するには、動態助詞のほかに時間を表す名詞や副詞が必要になってくる。

3) 時間名詞・時間副詞と動詞および動態助詞の関係

中国語では、時間副詞が文中に用いられる場合、動態助詞が省略されることがある。

她虽然现在正在唱歌, 可是刚才还跳了舞。

彼女はいま歌を歌っているが、さっきダンスもした。

他干了坏事, 正在反省。

彼は悪いことをしたので、(いま)反省している。

本来、例 の前節動詞「唱」および例 の後節動詞「反省」の後ろに、進行を表す動態助詞「着」がそれぞれの文に使用されても不自然ではないが、動作が進行中であることを表す時間副詞「正在」が用いられているために省略されている。しかし、「かつて、以前」の意味を持つ「曾经」と動作が完了したことを意味する「已经」の場合は、用いられても、動態助詞「过」と「了」は省略されない。また、前述のように、動詞および動態助詞の組み合わせでテンスが決まらない場合、時間名詞が必要となってくる。例えば、

明天,她下了班,再去跳舞。

明日,彼女は退社してから,ダンスをしに行く。

虽然昨晚下了一场大雪,可是路却没有冻。

夕べ大雪が降っていたが,道は凍結していない。

この二文では、時間名詞の存在によって複文のテンスが決まることになる。では、文頭の「明天,」は前節・後節の全出来事が未来に生起することを意味する。すなわち絶対テンスが未来である。前節動詞句は、「了」の存在によって「以前」の相対テンスを表すことが明白になる。したがって、 のテンスは「¹以前 - ²未来」であることが可能になる。では、時間名詞「昨晚」が前節の時間しか決められず、後節動詞句が現在の状態を表す動詞「冻」の否定形である「没有冻」で現れているため、 のテンスは「¹以前 - ²現在」となる。なお、前節動詞が絶対テンスをとっていると考えられる場合は、 のテンスは「¹過去 - ²現在」となる。

她前天唱了歌,昨天跳了舞。

彼女はおととい歌を歌ったが,昨日ダンスをした。

時間名詞「前天」と「昨天」は、それぞれ前節と後節に用いられている。ここでは、絶対的時間^{注7)}を表す名詞がそれぞれの文に用いられることによって、二つの出来事の時間的順序が決まってしまう。すなわち、前節出来事が先、後節出来事が後であって、相対テンスが「以前」であることは時間名詞と動態助詞の組み合わせで表されている。但し、このような場合、後節動詞句と前節動詞句はともに絶対テンスをとることも可能である。

時間名詞には、絶対的時間を表すもの以外に相対的時間^{注8)}を表すものもある。例えば「以后,时候,以前」「あと(で),とき(に),まえ(に)」はそうである。(3の2)参照)

- ・ 她唱(了)歌以后,我们跳舞。(¹以前 - ²未来)
彼女が歌を歌ったあと,私たちはダンスをする。
- ・ 她唱歌以前,我们(先)跳舞。(¹以後 - ²未来)
彼女が歌を歌うまえ,私たちは(先に)ダンスをする。
- ・ 她唱歌的时候,我们跳舞。(¹同時 - ²未来)
彼女が歌を歌っているとき,私たちはダンスをする。
- ・ 她唱(了)歌以后,我们跳了舞。(¹以前 - ²過去)
彼女が歌を歌ったあと,私たちはダンスをした。
- ・ 她唱歌的时候,我们跳了舞。(¹同時 - ²過去)

彼女が歌を歌っているとき，私たちはダンスをした。

- ・ 她昨天唱歌以前，跳了舞。(1 以後 - 2 過去)

彼女は昨日歌を歌うまえ，ダンスをした。

- ・ 昨天，她唱歌以前，跳了舞。(1 以後 - 2 過去)

昨日，彼女は歌を歌うまえ，ダンスをした。

・ ~ ・ のように，中国語複文の相対テンスが「以后, 时候, 以前」のような時間名詞だけで表されることが多く見られる。一方，・ と ・ のような，「以后, 时候, 以前」は，動態助詞および絶対的時間を表す名詞あるいは時間副詞とともに用いられないと，前節動詞句が相対テンスをとっていることが判断できず，前節動詞句が絶対テンスと相対テンスのどちらをとっているのかを弁別しにくい場合もある。

時間名詞と時間副詞が複文中に存在しないとき，複文の時間範疇が「前節動詞句 - 了, 过, 後節動詞句 - 0 (原形)」あるいは「前節動詞句 - 0 (原形), 後節動詞句 - 了, 过」のいずれかである場合には，前節動詞句は相対テンスをとっている可能性が高い。(両者が絶対テンスである可能性もあるが。)換言すれば，前節動詞句と後節動詞句がともに「了, 过, 0 (原形)」のいずれかで統一されている場合，前節動詞句は絶対テンスをとっていると考えてもさしつかえない。

4) まとめ

中国語では，時間名詞と時間副詞が用いられる場合，動態助詞が省略されることがある。それは時間を表す詞と動態助詞が常に組み合わせで認識されることが多く，片方が確認できればもう一方が決まってしまう，テンスのことは配慮ずみになるからである。このようなことがあって，中国語のテンスがあたかも時間名詞（あるいは時間副詞）によって表されることが多いかのように見える。しかし，そのような現象の背後に動態助詞固有の存在原則を見出すことができる。すなわち，日本語が動詞の語形変化（「ル形」あるいは「タ形」）によってテンスを表すように，中国語の場合は動詞の後ろにテンスを表す位置が存在していると考えることができる。つまり，中国語のテンスは，動詞およびその後ろの位置に入る動態助詞で表すことができるのである。

中国語の絶対テンスを表す場合は，過去を「動詞 + 了」(あるいは「動詞 + 过」)で，現在を「動詞 + 着」で，未来を「動詞 + 0」で表すことができる。中国語の相対テンスを表す場合は，以前を「動詞 + 了」(あるいは「動詞 + 过」)で，同時を「動詞 + 着」で，以後を「動詞 + 0」で表すことができる。

動詞の後ろに（動態助詞など）何も入らない時は，時間名詞や時間副詞あるいは文脈などによってテンスが配慮ずみとなっているものと考えられる。逆に，時間を表す詞が存在していないにも関わらず，動詞の後ろに何も入らないときには，入らないことに意味があるのであり，「動詞 + 0」でテンスを表しているのである。このことが中国語動詞の後ろにテンスを表す要素が入る位置があることを立証している。

動詞および動態助詞で絶対テンスあるいは相対テンスが確定できない場合には，時間名

詞または時間副詞を文中に入れることによって、複文のテンスを確定することができる。時間名詞と時間副詞は出来事の時間領域を定めるのに重要な役割を果たしている。

5. おわりに

中国語テンスの体系をめぐっては、長年多くの研究者が解明しようとしてきた。現在では「絶対三時制，相対三時制」理論（李臨定(1990)，李鉄根(1999)）がようやく認められるようになりつつある。しかし、絶対テンスと相対テンスが何によって表されるのか、相対テンスをとる動詞句の基準点がどこなのか、などの基本的な問題について、意見がまとまらないのが現状である。また、日本語などの諸外国語と異なっているのは、中国語の動詞が語形変化を持たない点である。それ故、中国語のテンスを分析するにあたって、動詞および動態助詞以外に、時間詞を大きく取り上げる研究も少なくない。

本研究では、動態助詞「了, 着, 过」および時間を表す詞の機能を分析し、日本語の図形表示法を導入することによって、中国語複文のテンスのありさまについて考察を試みた。

中国語の動詞は語形の変化がないが、それを補う動態助詞が存在している。動態助詞は動詞の後ろに付いて、英語の「(動詞) + ed, ing」や、日本語の「(動詞) + タ, テイル」のような語形変化の役割を果たすことができる。すなわち、中国語では「(動詞) + 了, 过, 着, 0」のかたちで外国語と同様に絶対および相対テンスを表すことができる。その結果、図形で示されているように、中国語に絶対テンスと相対テンスが存在していることは証明されることになる。さらに、中国語の複文においても、前節出来事が絶対テンスと相対テンスの両方をとれることが明らかになった。中国語の時間名詞および時間副詞は、動詞と動態助詞で明白にテンスを判断できない場合に、補助的にテンスを決める役割を果たすものであると位置づけることができる。

中国語のテンスを分析するにあたっては、動詞と動態助詞および時間名詞や時間副詞などを全て視野に入れたアプローチが重要である。しかし、動態助詞にはアスペクトを表すもう一つの側面があり、動詞にも動作動詞と状態動詞がある。さらに、二つ以上の単文によって構成される複文におけるテンスの構造、形容詞に関わるテンスとアスペクトの問題もある。この様々な条件の下に、中国語のテンス（あるいはアスペクト）はどのようなすがたを見せているのだろうか。そのパターンを全て網羅して表記することができるのか。今後更なる研究を重ねる必要がある。

<注>

注1) 今泉（2000）第16章および今泉（2003）A13章を参照。

注2) 語彙手段とは、テンス体系を研究するのに用いる時間名詞と時間副詞のことである。

注3) 語法手段とは、動態助詞の分析を意味している。

注4) 日本語の主文と従文の定義および両者の関係については、今泉（2003）A9章を参照。

- 注5) 図形は今泉(2000, 2003)の日本語文法図形表示法を参照して作成されたものである。
- 注6) 相対テンスの「以前, 同時, 以後」の定義については, 今泉(2003)121頁を参照。
- 注7) 絶対的時間は発話時間を基準とする出来事の生起する時間を指す。
- 注8) 相対的時間はほかの出来事が行われる時間を基準とする出来事の生起(あるいは完了)する時間を指す。

<参考文献>

- 曹広順 1995 『近代漢語助詞』 語文出版社
- 陳平著 中川裕之等訳 2000「現代中国語における時間体系の三元構造」, 『中国語言語学情報2 テンスとアスペクト』 好文出版 123-182頁
(原文:「論漢語時間系統的三元結構」『中国語文』 1988年第6期)
- 張秀著 中川裕之等訳 2000「中国語動詞のアスペクトとテンスの体系」, 同上 1-39頁
(原文:「漢語動詞の“体”和“時制”系統」『語法論集第2集』 中華書局 1957)
- 範曉・張豫峰等 2003 『語法理論綱要』 上海訳文出版社
- 戴耀晶 1997 『現代漢語時体系系統研究』 浙江教育出版社
- 房玉清 1992 『实用漢語語法』 語文出版社
- 高名凱 1986 『漢語語法論』 商務印書館
- 龔千炎 1995 『漢語的時相時制時態』 商務印書館
- 侯学超 1998 『現代漢語虚詞詞典』 北京大学出版社
- 李臨定 1990 『現代漢語動詞』 中国社会科学出版社
- 李鉄根 1999 『現代漢語時制研究』 遼寧大学出版社
- 陸俊明・馬真 1999 『現代漢語虚詞散論』 語文出版社
- 呂叔湘 1982 『中国文法要略』 商務印書館
- 王力 1954 『漢語語法綱要論』 中華書局
- 邢福義 2001 『漢語複句研究』 商務印書館
- 今泉喜一 2000 『日本語構造伝達文法』 揺籃社
- 今泉喜一 2003 『日本語構造伝達文法 発展A』 揺籃社
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト』 ひつじ書房
- 国立国語研究所 1985 『現代日本語のアスペクトとテンス』 秀英出版
- C. E. ヤーホントフ著 橋本萬太郎訳 1987 『中国語学研究叢書3 中国語動詞の研究』 白帝社 (原文のロシア語版は1957年に出版されたものである)
- 寺村秀夫 1990 『日本語のシンタクスと意味 第 巻』 くろしお出版
- 野田尚史 2002 『複文と談話』 岩波書店